



釧路湿原森林ふれあい推進センター

はじめに

今回は、標茶町雷別地区国有林において当センターが取り組んでいるトドマツ高年齢人工林の集団枯損跡地で、この地本来の天然林に復活させることを目的として取り組んでいる雷別地区自然再生事業をご紹介します。

この取組は、過去に損なわれた自然環境を取り戻すため、地域の多様な主体が参加して、自然環境の保全、再生、創出等を行う「自然再生推進法」（平成15年11月22日法律第148号）に基づき、地域の方々のボランティア活動の協力を受けているから森林再生を行っているものです。

新たな取組

平成29年度、新たに西松建設（札幌支社）と同社協力企業でつくるNネット、更に、釧路工業高等専門学校（以下、釧路高専。）の生徒と共同で9月16日（土）

に植樹を行いました。

Nネットは地域社会との連携や環境保全を進める企業の社会的責任（CSR）活動の一環として取り組み、釧路高専では同校の卒業生が関連企業に就職していることから、活動に賛同し共同での実施となったところ

です。当日の参加者は50名で、現地まで約1時間の移動時間を利用して、バス中で、明治以降の開拓により釧路湿原の環境が急速に悪化し、これに伴い湿原面積が減少していることや森林の持つ公益的機能を発揮させることにより湿原の環境悪化を予防できるなどの森林環境教育を行いました。

この日のためにハルニシ・ヤチダモ・ミズナラの苗木合計180本と野生動物による被害を防止するツリーシエルトを用意しました。植栽にあたっては、長年に渡ってこの地区で自然再生活動を行っているドングリ倶楽部の会員による

植栽指導等の協力を得ながら取り組みました。



ドングリ倶楽部の会員による植樹指導

参加した皆さんはスコップやクワを手に、汗をかきながら土を掘り起こし1本1本丁寧に苗木を植え、更に、植栽した苗木をエソユキウサギ等の野生動物の食害から守るためにツリーシエルトも設置してもらいました。生徒達も作業前や休憩時はふざけている場面も見られましたが、一旦作業が始まると集中した取り組み姿勢が見られ、予定より早い時間で作業が終了しました。

今後について

これまで当センターでは、釧路市民のボランティアにより再生事業に取り組んで

きましたが、今回初めて、企業や学校と連携して取り組みました。Nネットは企業の社会的貢献活動が実践できたこと、釧路高専では、生徒は自然環境学習を現場で体験できたこと、当センターでは事業の実施者が増えたことなどそれぞれの立場で成果が得られたことから、次年度以降も引き続き取り組みんでいく予定です。



植樹作業に精を出す釧路高専の生徒達



CSR活動に参加した皆さん